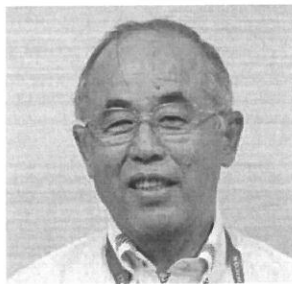


ビジネスインタビュー



(株)ファインテック

本木 敏彦
社長

「一発切断」の新技术で刃物業界に革命を

(柳川市西浜武)の本木敏彦社長。同社は曲線切断加工した刃物の抜き型で、対象物を1回のプレスで一発切断する技術を開発、10月から実用開始した。

「切りたいモノに最適化したオーダーメイドの刃物生産を強みに、お客さまの生産性向上、コスト削減を実現する『切断革命』を起こしたい」と意気込むのは、産業用刃物メーカー、(株)ファインテック

従来の切断方法はレーザーなどで切断した後、断面に粗さやズレなどが発生し、「仕上げ、洗浄、乾燥」といった2次工程が必要となる。同社の刃物は、ダイヤモンドに次ぐ硬度のタングステンを原料とした超硬合金を使用し、米粒や髪の毛まで切断できる薄くて鋭い刃先での切断を実現、これにより2次工程を省くことができる。本木社長は「高品質で長寿

命、加工時間の短縮でお客さまが最終的に求める切断面をすぐに提供できる」と効果を説明する。特に、今後も市場拡大が期待されるモバイルディスプレイ関連のフィルム切断では切断面の粗さや短寿命が課題だったが、一発切断の技術によりその可能性は広がることが期待される。5年前から取り組み始めた医療分野への進出では腹腔鏡手術に用いる皮膚切開用のメス「ファインタッカースリム」を開発した。現在はサンプル段階で、販売に向け改良を進める。「人を救う商品を世の中に生み出したいという思いが根底にある。今後も全力で研究、開発に力を注いでいく」と本木社長は闘志を燃やす。

【本社】〒832-0081 柳川市西浜武575-1 【設立】1989年11月 【資本金】8500万円 【売上高】約16億円(16年10月期) 【事業内容】産業用刃物の製造など 【従業員】239人 【TEL】0944-73-0877
(もとき・としひこ)

柳川市出身。1953年2月25日生まれ63歳。大川工業高校(現・大川樟風高校)卒。趣味は歴史を学ぶこと